

新年のご挨拶

老人保健施設「いこい」施設長 石橋久夫

新年明けましておめでとうございます

利用者の皆様、そして地域の皆様方のご多幸を心より祈念申し上げます。

この2年間、コロナ問題で世界中が混乱に陥り、その中で重症化し命を落とされた方も大勢おられます。心よりご冥福をお祈りしたいと思います。国内ではやっと沈静化し、経済活動も再開しつつありますが、諸外国のように第6波が来る可能性やオミクロンが入り込む可能性もあり、まだ油断はできません。我々にできることを引き続き守り続けていくかなさそうです。

理想の老健施設いこいをめざして

平成14年から、老健いこいの施設長を兼務し、岡村事務局長と二人三脚で、理想の老健施設をめざして努力してきました。二人が退任するにあたり、その足跡を振り返ってみたいと思います。

1) 3つの目標(理念の実践、利用者満足、職員満足)について

① 当老健の理念は「在宅復帰と在宅支援」です。全職員の協力のもと、一人でも多くの利用者に生活機能改善のための看護、介護、リハビリを提供し、少しでもいい状態(特に移動、排泄)にして在宅に戻れるように、そして在宅に戻ったあとも、短期入所や通所リハビリを利用いただきながら、少しでも長く家族と共に幸せに過ごせるよう努力してきました。

② 老健の使命の一つが「利用者満足」です。そのために、“全人的ケア、全人的リハビリ”という大きなテーマを掲げ、身体機能や認知機能が低下している、お年寄りの魂と尊厳を大切に支えながら、全員が笑顔と優しさのもと、心のこもったケアやリハビリを提供してきました。結果として、職員の熱い想いが伝わり、利用者一人一人に、自らの存在が大切にされているということを実感していただき、それが感謝の心につながっています。

③ 3つめの目標が「職員満足」です。就任当時最大の難問が、職員の対立・不和でした。これを解決すべく、聖徳太子の十七箇条の憲法の第一条である「和を以て貴しとなす」すなわち“和の精神”を心のあり方の基本に据え、職員相互の助け合いや協調のもとに相互の信頼関係の強化をめざしてきました。結果的にストレスの少ない職場になっています。私も現在では、職員一人一人が優しい家族の一員のように感じています。

2) ターミナルケア

私も30年以上にわたって、在宅での看取りに取り組む、末期癌の患者さんを中心に300人近い方を在宅で看取ってきました。私のテーマは「安らかな尊厳ある死」を実現することにあります。現在は、家庭介護力の低下に伴い、在宅での看取りが困難になりつつあり、老健いこいが地域での看取りの場として重要な位置を占めています。多くの利用者には元気で家に帰っていただくよう努力していますが、一方で、高齢で、生きようという気力も弱まり、食事も食べられなくなって心身ともに衰弱されていくお年寄には、決して無理な延命をめざすのではなく、人生に対する満足や感謝の気持ちなどを大事にいただきながら、ご家族の皆様と共に、看護、介護、リハビリなど他職種で協力しながら、少しでも“安らかな尊厳ある看取り”を実

現すべく努力を重ねています。結果として、家族の皆さんには、いい看取りができたと感謝していただいています。

平成 14 年からの 20 年間、私と事務局長共々、地域の皆さんには大変お世話になり、また多大なご支援をいただいたこと、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。今後とも老健いこいへのご支援をよろしくお願いいたします。